

茨城調査時報

N0.26

目 次

富んだ国と貧しい国…………… 1

【資料】

昭和29年事業所統計調査速報(その2)…………… 3

毎月人口世帯異動結果速報…………… 6

毎月勤労統計調査結果速報…………… 7

昭和29年内における農村物価賃金の動き…………… 11

昭和29年における本県人口の推移…………… 15

昭和29年産主要夏作物品種別作付調査の結果概要(その1)…………… 19

生産動態調査結果…………… 21

【調査の窓】

ひつじ年にちなみて…………… 18

統計用語の解説…………… 25

編 集 室…………… 25

近着主要統計書目録…………… 26

1955.2



富んだ国と貧しい国

行政管理庁 美濃部 亮吉
統計基準部長

私は終戦後外国へ六度行きました。最初にヨーロッパに行ったのが昭和24年の9月でしたから、約5年半に六度行ったこととなります。回数でいえば相当多いといえるでしょう。行った国のおもなものは、スイス、イタリー、イギリス、インド、ビルマ、アメリカ、カナダ等でした。外国へ行った回数は割合に多いのですけれど、何しろ会議に出席するのが目的で、会議は長くて10数日つづくだけですから、ほんとうの旅行者で、行った国の国民のくらし等について深い知識を得られようはずありません。それですから、これからお話しすることにも、いろいろのまちがいや考えちがいもあるでしょうが、そういう点があつたらどうぞおゆるしをねがいます。

最初に外国に行ったのは、昭和24年の9月のことで、行き先はスイスでした。昭和24年といえば、日本の生活事情はまだまだずい分と悪いものでした。パンの色もどす黒かつたし、お砂糖も自由には手に入らず、バターやチーズも進駐軍のものしかなく、コーヒーなどもたまにしか飲めませんでした。ノースウエストの飛行機に乗って、まず驚いたのは、食事の豪華なことでした。まつ白いパン、ふんだんにくれる砂糖、舌のとうけるほど甘いマーマレード、いくらでもお代りしてくれるかおりのよいコーヒー、その時の私にとつてはほんとうに夢のような気がしました。それにつれて飛行機のなかの食事にも段々感激をおぼえなくなつて来ました。何しろ不完全なせまい飛行機のなかのギンで料理するのですからそんなによいお料理ができようはずがありません。このころでは、料理の味が悪いとか、冷凍で肉がまずいとか思うようになりました。それも、日本の食生活が昭和24年以来急速に改善されたからだと思ひます。

昭和24年のそんな日本から、一足飛びにスイスに行ったのですから、スイスはまるでこの世のものとも思われず、まるで天国に迷いこんだような気がしました。或る日、一所に行った友達と町を散歩していました。スイスの首府ベルンでは、こんなことがありました。そのうちにベルンをつらぬいて流れている美しい河のほとりに出たのです。その河に渡されたこれもえのように美しい橋の上から下を眺めると、その河のほとりに、相当古びてはいるけれども、よく手入れがとどき、まどには花などがならべてあるアパートが目に入りました。戦争中か戦後に建てられたと思われる近代的な豪華なアパートにく

らればくらくらべものにならないおそまつですが、当時の東京のすまいにくらべれば、これ又くらくらべものにならないほどりつばなものでした。私達は、東京に帰つたらこのくらいの家には住みたいものだ話し合いました。それから2、3日にして、会議も一段落つき、どこかに見物に行こうかと相談していた時、スイスにだつて貧民くつはあるだろう、一つスイスの貧民くつを見に行こうではないかということになりました。早速ホテルの人にきいて見ますと、ベルンにもたしかに貧民くつがあるそうです。そこで、そこに行く道順を教わつて出かけました。教えられた通りに行くと、教えられた貧民くつに出ました。

ところが何んとそこは先日、橋の上から眺めながら、東京へ帰つたらせめてこのくらいの家には住みたいと話し合つたその家ではありませんか。私達は、顔を見合せてにが笑いをするよりほか仕方ありませんでした。スイスは、世界で国民の生活水準が三番目に高い国です。そして、貧富の懸隔が非常に小さい国なのです。それにしても、まことに羨しい国だと思ひました。

イタリーのローマに行きますと、スイスにくらべると国民の生活程度がずつと低いことがすぐ感じられます。日本と同じように、棒の先にくぎをつけて、道ばたにすてられた煙草のすいがらをひろつているおじいさんを見かけます。ヨーロッパで、すいがらを拾つているおじいさんがうろづろしているところはほとんどないでしょう。ローマの町を歩いていると、よたもの風の若い男がパーカーの万年筆を買わないかとそばによつてくるので思わずギョツとすることがあります。しかし、一般の国民の生活程度が日本より高いことはたしかであるようです。ローマは御承知のように、世界のうちでも、もつとも美しい都会の一つだともいえるでしょう。それにもかかわらず、ローマは、世界のうちでも、もつともやかましい都会の一つだといえそうです。

日本のように、ラジオがガーガーなつたり、ひつきりなしに自動車の警笛が耳に入るのでやかましいのではありません。日本にもあるあのスクーターが、ほとんど無数に走つていて、それがたえがたい騒音を発するので、ホテルで通りに面した室でも取ろうものなら、到底安眠などできるものではありません。このスクーターは一般のサラリーマンがもつていて、役所や会社に通うの

に使っているのです。日曜日は、恋人がおくさんをつけて郊外に遊びにでかけます。ローマの中産階級は、アメリカやスイスのように、自動車ももてるほどゆうふくではないようです。しかし、サラリーマン達がスクーターを買って乗りまわすことができる所を見ると、日本よりはよほど生活程度が高いといえそうです。

今度は大西洋を渡つて、ローマからアメリカに飛びましよう。アメリカは何といても世界で一番金持ちの国です。国民の生活程度も一般の平均でいえば世界で一番高いといえるでしょう。日本の生活程度と一体どのくらいちがうのでしょうか。私は役人で、行政管理庁という役所の統計基準部長という仕事をしていす。アメリカにも丁度私の役所と同じものがあります。それは大統領府の予算局のなかにあつて、名前も統計基準部といえ、仕事も私の役所の仕事とほとんど同じです。私はそこの人達とは相当親しくしており、ワシントンに行きますと、いつも二日や三日は、その役所の色々な人達の家にとめてもらいます。アメリカの統計基準部の次長をつとめているライリーさんのお家の話しをしてみましょう。統計基準部の次長さんですから、政府部内の位置からいえば部長である私より一つ下だといえます。年配はほぼ私と同じです。その人の家は、ワシントンの郊外の美しい林のなかにあります。家族の使う居間や寝室のほかに、バスとトイレを備えたお客さん用の部屋が二つあります。御主人と奥様は、それぞれ自分の自動車をもつておられます。お女中さんはいませんけれども、台所には、皿洗い機がそなわり、食事のあと始末も造作なくやります。電気冷蔵庫、電気洗たく機、テレビがあることはいうまでもありません。私とほぼ同じくらいの地位にあるアメリカの役人の生活はざつとこんなものです。

統計の数字によりますと、アメリカの平均の生活水準は日本の十倍くらいになっていますが、たしかに、私とライリーさんの生活程度のひらきは十倍くらいありそうです。生活程度はたしかにアメリカの方がずぬけて高いようです。しかし高ければ高いなりに、それを維持してゆくにも費用がかさみ、その生活は苦しく、けつしてそんならしくではないようです。しかし、苦しいにしても、維持してゆこうとする生活の内容が段ちがいのので、生活の程度は、日本とアメリカとは大へんなちがいがあるといわねばなりませんまい。

日本から30時間ほど飛行機にのりますとワシントンに着きます。ワシントンに着いて町を歩いて見ても、それほどちがつた国に来たような感じはしません。羽田から20時間ほどでビルマのラングーンに着き、そこから更に5、6時間でインドのカルカッタに着きます。ビルマもインドも、日本と同じアジアの一國ですし、そこを歩い

ている人達もわれわれと同人種のアジア人です。それなのに、ワシントンに着いた時よりも、ラングーンやカルカッタに着いた時の方がよつぽど外国に来たという感じがします。それには色々な理由があるでしょうが、こういう国々の国民の生活程度があまりにも低いということが、私達にいかにも知らないよその国に来たという感じを抱かせるのではないかと思います。

ビルマやインドでは町の両側に、しかも目抜き通りにさえ、両側にほつたて小屋の突に汚い食べものの屋台店がならび、何んともいえない怪しげな雑物を油でいためています。そこから出て来る異臭が町中にただよっています。はだしの住民達は、うすよごれた布をまとい、屋台店で買った食べものを立ち食いし、遠りよもなくつばをはきすてています。その道路は、いつはいたとも解らぬごみがうづ高くつもり、風が吹くと黄色いごみが空中に舞い上ります。夜ともなると、ほとんどあらゆる道の歩道には、アンベラをしいて、人がゴロゴロとねています。町中が、終戦直後の上野の地下道のような光景だといつても、大していいすぎではないでしょう。たしかに、インドやビルマの人達の生活程度にくらべれば、日本の生活はくらべものにならないほどぜいたくで高級だといえます。

世界の国々の生活程度は、国によつてこんなにもちがいます。世界における貧富には、驚くほどの懸隔があるようです。貧富のちがいがあまり大きいと、この国のなかでも色々むづかしい問題が起ります。世界になかなか平和が訪れない原因の一つは、たしかに、世界の国々の貧富のちがいがあまりにも甚しいことにあるといわなければなりませんまい。

〔注・なおこの原稿は昭和30年1月19日にラジオ東京から放送されたものを収録したものです〕



昭和29年事業所統計調査速報 (その二)

事業の経営組織別及び従業者数別事業所数 (民営及び公営)

町 村 別	区 別	事業所数						
		総 数	組 織 別				従 業 者 数 別	
			個 人	法 人	法人でない 団体	公 営	9人以下 のもの	10人以上 のもの
稲	郡	3,094	2,647	355	15	77	2,936	158
戸	町	381	330	43	3	5	363	15
江君沼鳩安	崎	80	63	14	—	3	78	2
	村	29	17	10	—	2	27	2
	村	47	36	9	—	2	44	3
	村	95	87	6	—	2	90	5
木君舟阿朝	原	182	158	20	—	4	177	5
	村	66	47	17	—	2	62	4
	村	63	49	12	—	2	58	5
	町	308	270	33	1	4	288	20
	村	93	73	16	—	4	85	8
奥葦平根柴	野	103	82	18	—	3	98	5
	崎	61	51	6	—	4	59	2
	久	276	245	23	2	6	256	20
	本	88	75	11	—	2	85	3
	村	119	106	11	—	2	114	5
太高大伊阿	田	84	71	11	—	2	81	3
	村	48	39	7	—	2	45	3
	村	82	70	10	—	2	77	5
	村	103	90	9	2	2	98	5
	村	109	97	10	—	2	103	6
古浮生長金	渡	133	119	11	—	3	130	3
	板	52	45	5	—	2	49	3
	卒	62	54	6	—	2	60	2
	村	58	51	4	1	2	54	4
	村	152	131	13	6	2	148	4
十本源	江	65	57	5	—	3	61	4
	津	82	67	11	—	4	76	6
	村	73	67	4	—	2	70	3
新	治	2,290	2,015	192	4	79	2,189	101
上下美牛佐	津	139	125	10	—	4	132	7
	村	38	32	4	—	2	35	3
	村	84	72	10	—	2	83	1
	村	71	63	6	—	2	67	4
	村	119	106	10	—	3	114	5
安志関田玉	飾	69	62	3	—	3	65	3
	庫	64	54	6	—	4	61	3
	村	43	35	5	—	3	43	—
	村	79	66	9	—	4	72	7
	村	20	16	2	—	2	20	—
園瓦林恋葦	部	88	73	10	—	5	85	3
	会	82	75	5	—	2	79	3
	村	69	64	2	—	3	65	4
	村	112	101	8	—	3	108	4
	村	74	63	8	—	3	70	4
柿小小藤斗	岡	228	212	13	1	2	222	6
	幡	99	92	4	—	3	96	3
	村	75	66	5	—	4	72	3
	村	113	94	17	—	2	106	7
	村	45	40	3	—	2	42	3
山栄九栗三	の	48	38	8	—	2	43	6
	庄	142	125	12	1	4	138	4
	村	109	100	6	—	3	106	3
	村	50	42	6	—	2	48	2
	村	38	31	3	2	2	35	3
千代田村	代	193	168	17	—	8	182	11

事業の経営組織別及び従業者数別事業所数（民営及び公営）

町 村 別	区 別	事業所数						従業者数別	
		総 数	組 織 別				9人以下 のもの	10人以上 のもの	
			個 人	法 人	法人でない 団体	公 営			
筑波郡		3,389	2,968	347	77	67	3,297	92	
谷田部	町	384	330	45	—	6	373	11	
板橋	村	97	73	22	—	2	96	1	
久賀	村	102	92	7	—	3	98	4	
谷十原	村	94	78	14	—	2	93	1	
	村	77	62	12	—	3	75	2	
福真島	村	80	67	12	—	1	77	3	
旭上	村	115	102	12	—	1	112	3	
	村	67	58	7	—	2	63	4	
	町	230	217	9	—	4	227	3	
	郷	282	255	22	1	4	275	7	
吉作田	村	186	168	16	—	2	181	5	
菅筑	村	92	82	8	—	2	90	2	
	村	106	93	10	—	3	102	4	
	町	67	54	10	—	3	64	3	
	町	163	158	6	1	3	163	5	
田北小	村	100	88	9	—	3	95	5	
大葛	町	357	329	24	—	4	350	7	
	町	141	129	9	—	3	136	5	
	村	225	197	23	—	5	221	4	
	村	85	62	20	—	3	85	—	
小伊野	村	108	78	26	2	2	104	4	
伊奈	村	226	196	24	—	6	217	9	
真壁郡		2,461	2,225	181	5	50	2,367	94	
関河川	町	253	235	12	2	4	243	10	
黒村	村	41	37	2	—	2	39	2	
	村	72	64	6	—	2	70	2	
	村	133	113	18	—	2	132	1	
	村	85	80	2	—	3	83	2	
鳥上大	村	33	30	2	—	1	32	1	
長古	村	93	88	3	—	2	91	2	
	村	203	188	11	1	3	198	5	
	村	68	61	5	—	2	62	6	
	村	91	79	9	—	3	88	3	
谷紫樺	村	45	40	3	—	2	43	2	
真新	村	149	136	9	—	4	145	4	
	村	90	81	7	—	2	84	6	
	村	616	543	65	2	6	589	27	
	村	169	160	6	—	3	162	7	
小大	村	121	111	7	—	3	118	3	
	村	199	179	14	—	6	188	11	
結城郡		1,870	1,622	214	—	34	1,792	78	
中名安	村	140	133	5	—	2	136	4	
大岡	村	171	154	12	—	5	164	7	
	村	117	104	11	—	2	113	4	
	村	100	88	10	—	2	98	2	
	村	82	77	3	—	2	77	5	
下西蚕	村	89	79	8	—	2	87	2	
宗玉	村	237	208	25	—	4	233	4	
	村	55	39	14	—	2	55	—	
	村	154	122	29	—	3	146	8	
	村	79	60	17	—	2	74	5	

事業の経営組織別及び従業者数別事業所数（民営及び公営）

町 村 別	区 別	事業所				従業者数別			
		総 数	組 織 別			9人以下 のもの	10人以上 のもの		
			個 人	法 人	法人でない 団体			公 営	
石	下	町	436	376	56	—	4	409	27
豊	田	村	59	48	9	—	2	55	4
飯	沼	村	151	134	15	—	2	145	6
猿	島	郡	3,788	3,262	463	4	59	3,637	151
新	郷	村	115	86	27	—	2	110	5
勝	鹿	村	112	94	15	—	3	108	4
岡	郷	村	71	61	7	—	3	67	4
桜	井	村	113	95	14	—	4	107	6
香	取	村	126	100	24	—	2	122	4
五	霞	村	170	140	28	—	2	164	6
静	田	村	77	65	9	1	2	74	3
長	俣	村	111	98	13	—	—	107	4
八	島	村	148	127	19	—	2	140	8
幸	島	村	302	269	29	—	4	293	9
猿	島	村	95	79	14	—	2	91	4
森	戸	村	120	98	20	—	2	114	6
生	子	村	91	73	15	—	3	85	6
逆	井	村	101	92	5	—	4	96	5
七	重	村	79	61	18	—	—	75	4
杓	掛	町	310	292	14	—	4	299	11
弓	馬	村	72	59	11	—	2	68	4
飯	島	村	52	47	3	—	2	48	4
神	犬	村	177	162	12	—	3	172	5
岩	井	町	433	378	52	—	3	423	10
七	郷	村	82	60	19	1	2	78	4
中	川	村	102	91	9	—	2	99	3
境	須	町	618	535	77	2	4	590	28
長	須	村	111	100	9	—	2	107	4
北	相	馬	2,048	1,774	213	9	52	1,946	102
菅	生	村	115	103	10	—	2	107	8
内	守	村	34	29	3	—	2	31	3
小	谷	村	53	46	5	—	2	48	5
大	絹	村	29	18	9	—	2	26	3
大	沢	村	40	35	4	—	1	37	3
高	野	村	49	35	4	—	1	36	4
守	谷	町	214	194	18	—	2	207	7
高	井	村	59	53	4	—	2	54	5
稻	戸	村	52	45	4	—	3	51	1
山	王	村	106	90	13	—	3	104	2
寺	原	村	51	44	4	—	3	47	4
取	手	町	654	552	82	8	12	621	33
小	文	村	60	53	6	—	1	58	2
六	郷	村	35	26	8	—	1	32	3
相	馬	町	221	195	22	1	3	212	9
高	須	村	37	32	2	—	3	36	1
文	川	町	41	36	3	—	2	38	3
布	間	村	130	121	7	—	2	128	2
文	文	村	42	38	2	—	2	40	2
東	間	村	35	29	3	—	3	33	2

毎月人口世帯異動調査結果速報

(昭和29年12月分)

茨城県総務部調査課

— 結果の概況 —

昭和29年12月末現在における本県人口は、2,066,447人でその内訳は男が1,005,879人、女が1,060,598人となっており、前月より712人増加している、この増加した主な原因は説明を加えるまでもなく、自然増加によるものであつて、出生100人に対し、死亡は48人となっており、出生は死亡の約2.3倍に達している。

次に人口異動状況を内訳別にみると、出生が3,476人、死亡が1,499人で1,977人の自然増加となつている。また社会異動面では県内間の転入が3,510人、転出が3,831

人、県外から転入した者が2,621人、県外へ転出した者が3,679人あり、その他の異動によつて114人の増加となつているので、差引社会異動により1,265人の減少となつている。

なお一世帯当りの平均人員は市部が5.0人郡部が5.6人県平均は5.4人となつている。また男女の比率は女100人に対し、男は市部が93.6人、郡部が95.3人で県平均では94.8人となつており女が54,719人多い。

1. 前月との比較

月別	区分	世帯数	人口			移動内訳	
			総数	男	女	県内	
						転入	転出
11 12 増	月月 減	382,267 382,294 27	2,065,765 2,066,477 712	1,005,311 1,005,879 568	1,060,454 1,060,598 144	3,988 3,510 △ 478	3,843 3,831 △ 12

月別	区分	移動		内訳		その他	
		転入	転出	出生	死亡	その他	
						増加	減少
11 12 増	月月 減	3,595 2,621 △ 974	3,784 3,679 △ 105	3,129 3,476 347	1,550 1,499 △ 51	79,547 6,070 △ 73,477	79,931 5,956 △ 73,975

△は減をあらわす。

2. 市郡別世帯数及び人口数

市郡別	区分	世帯数	人口		
			総数	男	女
水戸市	戸立	(48) 19,069	(174) 85,539	(98) 40,893	(76) 44,646
土浦市	浦河	(82) 13,822	(354) 64,419	(204) 32,058	(150) 32,361
古河市	河岡	(120) 15,819	(429) 71,831	(246) 34,976	(183) 36,855
下館市	館崎	(32) 6,910	(155) 33,877	(78) 15,745	(77) 18,132
結城市	崎湊	(16) 7,244	(63) 36,301	(35) 17,597	(28) 18,704
竜ヶ崎	湊妻	(70) 9,614	(316) 52,939	(189) 25,669	(127) 27,270
下野市	海太	(20) 6,882	(80) 39,708	(45) 19,133	(35) 20,575
常陸市	田萩	(78) 6,585	(299) 33,944	(165) 16,482	(134) 17,462
高萩市	萩	(23) 6,833	(75) 32,787	(44) 15,103	(31) 17,684
鹿嶋市	島方	(12) 5,618	(46) 32,431	(27) 15,602	(19) 16,829
鹿嶋市	敷治	(36) 6,197	(180) 33,589	(103) 16,129	(77) 17,460
鹿嶋市	波	(20) 6,486	(66) 32,593	(36) 15,804	(30) 16,789
鹿嶋市	壁	(10) 7,074	(40) 35,937	(23) 17,651	(17) 18,286
鹿嶋市	馬	(0) 6,660	32,140	15,984	16,156
鹿嶋市	計	(567) 124,813	(2,277) 618,035	(1,293) 298,826	(984) 319,209
鹿嶋市	城	(12) 29,686	(61) 159,507	(23) 77,541	(38) 81,966
鹿嶋市	城	(55) 17,486	(230) 95,675	(128) 46,440	(102) 49,235
鹿嶋市	河	(53) 20,381	(189) 111,447	(106) 54,531	(83) 56,916
鹿嶋市	慈	(93) 21,553	(347) 116,849	(179) 56,984	(168) 59,865
鹿嶋市	賀	(63) 23,091	(289) 117,882	(180) 59,231	(109) 58,651
鹿嶋市	島	(90) 21,435	(330) 126,564	(184) 61,483	(146) 65,081
鹿嶋市	方	(16) 13,948	(86) 81,368	(53) 39,475	(33) 41,893
鹿嶋市	敷	(50) 20,562	(167) 114,867	(99) 56,061	(68) 58,806
鹿嶋市	治	(23) 15,940	(58) 90,237	(39) 44,267	(19) 45,970
鹿嶋市	波	(77) 17,139	(322) 98,462	(170) 48,154	(152) 50,308
鹿嶋市	壁	(13) 14,539	(55) 86,408	(33) 42,097	(22) 44,311
鹿嶋市	城	(11) 9,645	(45) 58,748	(24) 28,505	(21) 30,243
鹿嶋市	島	(32) 20,517	(104) 126,633	(58) 61,298	(46) 65,335
鹿嶋市	馬	(20) 11,554	(71) 63,795	(43) 30,986	(28) 32,809
鹿嶋市	計	(613) 257,481	(2,354) 1,448,442	(1,319) 707,053	(1,035) 741,389
鹿嶋市	計	(1,180) 382,294	(4,631) 2,066,477	(2,612) 1,005,879	(2,019) 1,060,598

毎月勤労統計調査結果速報

(昭和29年10月分)

労働省大臣官房労働統計調査部 茨城県

結果の概要

1. 平均賃金の推移

10月分調査事業所の現金給与総額の総数は14,549円で前月分比へ315円(2%)の減少である。これは9月迄に夏期手当の支給が完了したためである。一方冬物の需要期を迎え、生産、売上などがやや活況を示した繊維業及び衣服及び身廻品製造業の増加が見られる。食料品製造業の増加は平均給与の低い一部事業所が対象外となつたためである。運輸通信業及びその他の公益事業では一部において、定期昇給及び時間外勤務が多かつたため

と、ベースアップの差額が支給されたために前月より約7%の上昇を示した。

臨時及び日雇労働者の賃金も総数平均287円前月に比べ、4円(1.4%)増で大した上昇も見られないが、やはり繊維業は243円で30円(14%)増、衣服及び身廻品製造業は、新たに臨時を入れた所もあつて、327円と活況を示している。

産 業 名	現金給与総額		きまつて支給する 与 給		特別に支給された 与 給		臨時及び日雇労働者 1人1日平均給与	
	10 月	対前月差	10 月	対前月差	10 月	対前月差	10 月	対前月差
總 数	14,549	- 315	14,277	+ 99	272	- 414	287	+ 4
釧 業	13,579	- 188	13,555	+ 171	24	- 359	280	+ 59
生 産 業	13,466	- 92	13,466	+ 232	0	- 321	-	-
管 理 事 務	14,079	- 827	14,055	- 146	24	- 681	-	-
製 造 業	13,402	- 187	13,387	- 121	15	- 66	308	+ 3
生 産 業	11,286	+ 17	11,285	+ 91	1	- 74	-	-
管 理 事 務	18,021	- 909	17,974	- 860	47	- 49	-	-
卸 売 及 び 小 売 業	13,785	- 3,713	13,671	- 31	114	- 3,682	255	- 21
運 輸 通 信 業 及 び 其 他 の 公 益 事 業	17,182	+ 1,059	16,200	+ 516	982	+ 543	289	+ 1
建 設 業	8,479	- 186	8,479	- 186	0	0	288	- 2
医 療 及 び 保 険 業	14,458	+ 25	14,449	+ 33	9	- 8	280	- 13
製造業中分類別								
食 料 品	13,164	+ 1,294	13,164	+ 1,575	0	- 281	271	- 2
紡 織 品	5,705	+ 37	5,705	+ 37	0	0	243	+ 30
衣 服 及 び 身 廻 品	5,595	+ 646	5,595	+ 646	0	0	327	+ 327
ガ ラ ス 及 び 土 石 製 品	12,202	- 684	12,191	- 393	11	- 291	264	- 2
第 一 次 金 属	15,191	- 218	15,080	+ 67	111	- 285	0	0
機 械 器 具	11,665	+ 72	11,665	+ 72	0	0	316	+ 4
電 気 機 械 器 具	16,107	- 444	16,107	- 444	0	0	306	- 3

2. 平均総実労働時間数と出勤日数の推移

本月の労働時間数は産業総数で191.7時間で前月に比べ4.8時間(2%)の減少を示した。その他は次の表に示すとおり、大した変動も見られない。

3. 雇用の傾向と労働異動

本月の産業総数における推計労働者数は53,996人(男44,330人女9,666人)となつており、前月の54,112人に対し、116人(0.8%)減と引続き減少傾向を持續している。特に製造業は291人1.1%減少している。その反面臨時及び日雇の求人は増加し、卸売及び小売業では延人員13,690人前月より10,164人と著しい増加である。これは

産 業 名	実労働時間数		出勤日数	
	10月	対前月差	10月	対前月差
總 数	191.7	- 4.3	23.9	- 0.4
釧 業	194.9	+ 0.4	24.2	+ 0.1
製 造 業	189.2	- 9.8	23.6	- 0.9
卸 売 及 び 小 売 業	189.2	- 7.0	25.1	+ 0.7
運 輸 通 信 業 及 び 其 他 の 公 益 事 業	196.4	+ 1.7	24.1	+ 0.2
建 設 業	178.3	- 5.1	21.9	- 0.4
医 療 及 び 保 険 業	194.3	- 2.4	24.3	+ 0.4

煙草の納入期を控えての求人のためと思われる。

種 別	入 職 者	離 職 者	推計労働者数	臨時及び日雇の月間延人員	
				10 月	前月との差
産 業 總 数	796	912	53,996	59,261	+13,630
釧 業	330	179	9,910	7,747	+ 967
製 造 業	313	604	27,133	22,105	+ 5,597
卸 売 及 び 小 売 業	20	13	1,731	13,690	+10,164
運 輸 通 信 業 及 び 其 他 の 公 益 事 業	116	95	14,148	15,719	- 3,098
建 設 業	82	418	2,920	39,066	-13,072
医 療 及 び 保 険 業	22	43	1,961	93	+ 11

第1表 産業、常用労働者の種類及び性別1人平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額 (規模30人以上)

産 業 名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われ た 給 与			臨時及び日雇 労働者の1人 1日平均現金 給与額
	総 数	男 子	女 子	総 数	男 子	女 子	総数	男子	女子	
全 常 用 労 働 者										
總 数	円 14,445	円 16,123	円 6,783	円 14,173	円 15,814	円 6,678	円 272	円 309	円 105	円 287
D 鉱 業	13,579	14,425	5,504	13,555	14,401	5,504	24	24	0	280
F 製 造 業	13,402	15,871	6,019	13,387	15,851	6,019	15	20	0	308
20 食 料 品 製 造 業	13,164	15,237	4,955	13,164	15,237	4,955	0	0	0	271
22 紡 織 業	5,705	11,893	4,662	5,705	11,893	4,662	0	0	0	243
23 衣 服 及 び 身 廻 品 製 造 業	5,595	10,939	4,417	5,595	10,939	4,417	0	0	0	327
32 ガラス及び土石製品製造業	12,202	13,153	5,474	12,191	13,142	5,474	11	11	0	264
33 第一次金属製造業	15,191	16,333	6,684	15,080	16,208	6,682	111	125	2	0
35 機 械 製 造 業	11,665	12,353	5,728	11,665	12,353	5,728	0	0	0	316
36 電気機械器具製造業	16,107	17,693	7,522	16,107	17,693	7,522	0	0	0	306
G 卸 売 及 び 小 売 業	10,536	11,024	7,143	10,422	10,897	7,140	114	127	3	255
J 運 輸 通 信 業 及 び 其 他 公 益 事 業	17,182	17,931	10,262	16,200	16,922	9,531	982	1,009	731	289
E 建 設 業	8,479	9,322	4,899	8,479	9,322	4,899	0	0	0	288
K 88 医 療 保 健 業	14,458	19,778	10,718	14,449	19,757	10,717	9	21	1	280
生 産 労 働 者										
D 鉱 業	13,466	14,184	5,114	13,466	14,184	5,114	0	0	0	—
坑 内	15,575	15,575	—	15,575	15,575	—	0	0	—	—
坑 外	9,554	10,852	5,114	9,554	10,852	5,114	0	0	—	—
F 製 造 業	11,286	13,592	5,497	11,285	13,591	5,497	1	1	0	—
20 食 料 品 製 造 業	12,248	14,433	3,987	12,248	14,433	3,987	0	0	0	—
22 紡 織 業	4,887	8,758	4,565	4,887	8,758	4,565	0	0	0	—
23 衣 服 及 び 身 廻 品 製 造 業	4,993	10,000	4,248	4,993	10,000	4,248	0	0	0	—
32 ガラス及び土石製品製造業	11,919	12,753	4,991	11,909	12,743	4,991	10	10	0	—
33 第一次金属製造業	13,454	14,176	5,584	13,454	14,176	5,584	0	0	0	—
35 機 械 製 造 業	10,565	10,878	5,651	10,565	10,878	5,651	0	0	0	—
36 電気機械器具製造業	13,730	15,073	6,992	13,730	15,073	6,992	0	0	0	—
E 建 設 業	6,466	6,982	4,609	6,466	6,982	4,609	0	0	0	—
管 理 事 務 及 び 技 術 労 働 者										
D 鉱 業	14,079	15,790	6,446	14,055	15,766	6,446	24	24	0	—
F 製 造 業	18,021	20,411	7,742	17,974	20,353	7,741	47	58	1	—
20 食 料 品 製 造 業	15,353	17,588	7,203	15,353	17,588	7,203	0	0	0	—
22 紡 織 業	11,726	14,665	6,493	11,726	14,665	6,493	0	0	0	—
23 衣 服 及 び 身 廻 品 製 造 業	10,879	12,950	7,692	10,879	12,950	7,692	0	0	0	—
32 ガラス及び土石製品製造業	14,114	16,291	6,971	14,096	16,273	6,971	18	18	0	—
33 第一次金属製造業	18,340	20,708	7,610	18,028	20,328	7,606	312	380	4	—
35 機 械 製 造 業	14,236	16,442	5,780	14,236	16,442	5,780	0	0	0	—
36 電気機械器具製造業	19,803	22,070	8,276	19,803	22,070	8,276	0	0	0	—
E 建 設 業	13,154	14,199	6,042	13,154	14,199	6,042	0	0	0	—

注 1. 総数及び製造業の結果は煙草製造業、木材及び木製品製造業、紙及び類似品製造業、印刷及び出版類似業、化学工業、精密機械製造業、金属製品製造業、その他の製造業及び金融及び保険業（何れも調査事業所僅少のため公表除外）を含めて算定したものである。
 2. 総数の中には建設業及びサービス業は含まれない。
 3. 生産労働者欄の建設業は常用作業者についての数値である。
 4. 生産労働者、管理事務及び技術労働者の表の卸売及び小売業、金融及び保険業、運輸通信及びその他の公益事業サービス業の結果については、労働者の種類別に調査を実施していないので計数は得られない。

第2表 産業、常用労働者の種類及び性別1人平均月間実労働時間数及び出勤日数（規模30人以上）

産 業 名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外実労働時間数			出 勤 日 数		
	総 数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全 常 用 勞 働 者												
總 数	191.7	194.1	180.6	178.3	178.9	175.4	13.4	15.2	5.2	23.9	24.1	23.2
D 鉱 業	194.9	195.9	185.3	176.2	176.1	177.0	187.0	19.8	8.3	24.2	24.2	24.4
F 製 造 業	189.2	192.3	180.1	177.4	177.9	176.0	11.8	14.4	4.1	23.6	23.9	22.9
20 食 料 品 製 造 業	198.1	202.9	180.3	182.7	184.5	176.0	15.4	18.4	4.3	24.2	24.6	22.6
22 紡 織 業	188.7	216.5	184.3	184.4	200.6	181.6	4.3	15.9	2.4	23.0	25.1	22.7
23 衣服及び身廻品製造業	193.1	199.7	191.5	190.0	195.2	188.8	3.1	4.5	2.7	24.0	24.4	23.9
32 ガラス及び土石製品製	198.6	201.1	181.0	170.3	170.1	171.8	28.3	31.0	9.2	22.7	22.6	22.8
33 第一次金属製造業	184.6	186.9	168.7	170.4	171.2	165.1	14.2	15.7	3.6	23.7	23.8	22.9
35 機 械 製 造 業	185.7	187.7	178.0	179.8	180.4	174.4	6.9	7.3	3.6	23.6	23.6	23.4
36 電気機械器具製造業	188.0	190.4	175.6	176.6	177.8	170.8	11.4	12.6	4.8	23.7	23.9	22.9
G 卸 売 及 び 小 売 及 び	189.2	189.6	187.1	177.3	177.0	179.5	11.9	12.6	7.6	25.1	25.2	24.0
J 運 輸 通 信 及 び	195.4	197.9	182.3	182.9	183.8	174.5	13.5	14.1	7.8	24.1	24.2	23.4
E 其 他 の 公 益 事 業	178.3	176.9	184.0	173.8	171.5	183.5	4.5	5.4	0.5	21.9	21.7	23.1
E 建 設 業	178.3	176.9	184.0	173.8	171.5	183.5	4.5	5.4	0.5	21.9	21.7	23.1
K 38 医 療 保 健 業	194.3	198.5	191.4	180.9	182.6	179.7	13.4	15.9	11.7	24.3	24.6	24.1
生 産 勞 働 者												
D 鉱 業	194.9	195.6	187.0	175.6	175.4	177.7	19.3	20.2	9.3	24.0	24.0	24.1
坑 内	189.1	189.1	—	174.1	174.1	—	15.0	15.0	—	23.4	23.4	—
坑 外	205.7	211.2	187.0	178.3	178.5	177.7	27.4	32.7	9.3	25.0	25.3	24.1
F 製 造 業	189.4	193.3	179.4	176.9	177.4	175.6	12.5	15.9	3.8	23.4	23.7	22.7
20 食 料 品 製 造 業	197.7	203.0	177.4	180.0	182.0	172.4	17.7	21.0	5.0	23.8	24.3	21.8
22 紡 織 業	186.4	221.4	183.5	182.2	196.3	181.0	4.2	25.1	2.5	22.8	24.5	22.6
23 衣服及び身廻品製造業	188.5	194.3	187.7	185.4	189.0	184.9	3.1	5.3	2.8	23.8	23.6	23.9
32 ガラス及び土石製品製	197.8	200.7	173.5	167.5	167.6	167.1	30.3	33.1	6.4	22.3	22.3	22.1
33 第一次金属製造業	187.4	189.8	161.1	170.5	171.6	158.4	16.9	18.2	2.7	23.6	23.7	21.7
35 機 械 製 造 業	187.3	187.7	180.7	179.7	180.1	173.5	7.6	7.6	7.2	23.5	23.5	23.4
36 電気機械器具製造業	187.6	191.8	174.8	176.2	179.1	170.2	11.4	12.7	4.6	23.7	24.0	22.8
E 建 設 業	165.3	162.6	179.7	162.7	158.0	179.5	3.6	4.6	0.2	20.4	19.8	22.5
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者												
D 鉱 業	194.9	198.0	181.0	179.6	180.6	175.2	15.3	17.4	5.8	25.4	25.5	25.1
F 製 造 業	188.9	190.5	182.3	178.6	178.9	177.3	10.3	11.6	5.0	24.0	24.2	23.6
20 食 料 品 製 造 業	199.4	202.7	187.1	189.3	190.6	184.4	10.1	12.1	2.7	25.0	25.2	24.5
22 紡 織 業	206.0	212.1	195.2	200.7	204.4	194.1	5.3	7.7	1.1	25.1	25.6	24.3
23 衣服及び身廻品製造業	232.6	210.2	267.0	230.1	207.0	265.5	2.5	3.2	1.5	25.3	25.9	24.4
32 ガラス及び土石製品製	204.0	204.0	203.9	188.8	189.6	186.2	15.2	14.4	17.7	25.1	25.2	24.8
33 第一次金属製造業	179.7	180.8	175.1	170.3	170.2	170.8	9.4	10.6	4.3	24.0	24.1	23.8
35 機 械 製 造 業	185.3	187.7	176.0	180.0	181.3	174.9	5.3	6.4	1.1	24.0	24.1	23.3
36 電気機械器具製造業	188.5	191.0	176.6	177.2	178.4	171.6	11.3	12.6	5.0	23.8	24.0	23.1
E 建 設 業	205.0	206.5	203.6	199.4	199.5	199.0	6.3	7.0	1.6	25.5	25.5	25.4

(注) 第1表参照

第3表 産業、常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の月間推計延人員（規模80人以上）

産 業 名	前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
全 常 用 勞 働 者													
總 数	54,112	44,354	9,758	796	582	214	912	606	306	53,996	44,330	9,666	59,261
D 釵 業	9,759	8,838	921	330	284	46	179	160	19	9,910	8,962	948	7,747
F 製 造 業	27,424	20,517	6,907	313	194	119	604	341	263	27,133	20,370	6,763	22,105
20 食 料 品 製 造 業	1,054	834	220	20	8	12	33	23	10	1,041	819	222	11,904
22 紡 織 業	2,619	375	2,244	34	2	32	89	4	85	2,564	373	2,191	916
23 衣服及び身廻品製造業	654	115	539	11	0	11	29	0	29	636	115	521	559
32 ガラス及び土石製品製造業	1,679	1,487	192	89	45	44	42	36	6	1,726	1,496	230	2,644
33 第一次金属製造業	3,587	3,157	430	15	11	4	80	58	22	3,522	3,110	412	0
35 機 械 製 造 業	2,060	1,845	215	18	18	0	27	24	3	2,051	1,839	212	1,988
36 電気機械器具製造業	12,400	10,447	1,953	92	82	10	240	167	73	12,252	10,362	1,890	284
G 卸 売 及 び 小 売 業	1,724	1,509	215	20	7	13	13	7	6	1,731	1,509	222	13,690
J 運 輸 通 信 及 び そ の 他 公 益 事 業	14,127	12,756	1,371	116	81	35	95	83	12	14,148	12,754	1,394	15,719
E 建 設 業	3,256	2,592	664	82	76	6	418	261	157	2,920	2,407	513	39,066
K 88 医 療 保 健 業	1,982	820	1,162	22	6	16	43	18	25	1,961	808	1,153	93
生 産 勞 働 者													
D 釵 業	8,260	7,615	645	318	275	43	148	137	11	8,430	7,753	677	—
坑 内	5,354	5,354	—	243	243	—	106	106	—	5,491	5,491	—	—
坑 外	2,906	2,261	645	75	32	43	42	31	11	2,939	2,262	677	—
F 製 造 業	18,980	13,672	5,308	262	156	106	511	282	229	18,731	13,546	5,185	—
20 食 料 品 製 造 業	743	589	154	12	7	5	21	17	4	734	579	155	—
22 紡 織 業	2,308	176	2,132	32	2	30	85	3	82	2,255	175	2,080	—
23 衣服及び身廻品製造業	588	75	513	11	0	11	29	0	29	570	75	495	—
32 ガラス及び土石製品製造業	1,458	1,318	140	88	45	43	39	35	4	1,507	1,328	179	—
33 第一次金属製造業	2,314	2,114	200	12	9	3	58	40	18	2,268	2,083	185	—
35 機 械 製 造 業	1,444	1,357	87	15	15	0	24	22	2	1,435	1,350	85	—
36 電気機械器具製造業	7,568	6,415	1,153	68	59	9	203	145	58	7,433	6,329	1,104	—
E 建 設 業	2,318	1,775	543	71	65	6	39	237	153	1,999	1,603	396	—
管 理 事 務 及 び 技 術 勞 働 者													
D 釵 業	1,499	1,223	276	12	9	3	31	23	8	1,480	1,209	127	—
F 製 造 業	8,444	6,845	1,599	51	38	13	93	59	34	8,402	6,824	1,578	—
20 食 料 品 製 造 業	311	245	66	8	1	7	12	6	6	307	240	67	—
22 紡 織 業	311	199	112	2	0	2	4	1	3	309	198	111	—
23 衣服及び身廻品製造業	65	40	26	0	0	0	0	0	0	66	40	26	—
32 ガラス及び土石製品製造業	221	169	52	1	0	1	3	1	2	219	168	51	—
33 第一次金属製造業	1,273	1,043	230	3	2	1	22	18	4	1,254	1,027	227	—
35 機 械 製 造 業	616	488	128	3	3	0	3	2	1	616	489	127	—
36 電気機械器具製造業	4,832	4,032	800	24	23	1	37	22	15	4,819	4,033	786	—
E 建 設 業	938	817	121	11	11	0	28	24	4	921	804	117	—

(注) 第1表参照

昭和29年内における

この調査は本県農村における物価賃金の変動を毎月指定町村について調査し、農村経済の実態をは握するために行っている。

この調査方法は先づ、全県下の町村中から10分の1の町村を抽出選定し、該当町村の調査担当者が聞取調査の方法に

1. 農家生産物の販売価格（単位円）

月	品目別 単 位	粳米	糯米	大麦	小麦	裸麦	小麦粉	とうもろこし	あわ	そば粉	大豆	あづき	いんげん豆	落花生	胡麻	なたね	甘藷	馬鈴薯	肉牛	肉豚
		1升	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1貫	1升	〃	〃	〃	〃	〃	1貫	〃	生体1貫	〃
1	月	137	146	62	52	57	189	—	96	202	88	111	118	140	144	73	36	62	633	736
2	月	140	143	62	47	59	195	52	108	212	91	115	112	141	147	73	40	64	599	731
3	月	142	145	62	54	60	190	52	88	202	94	119	—	138	142	77	40	76	608	734
4	月	155	153	66	52	65	203	45	95	225	94	129	122	157	159	76	45	76	565	601
5	月	154	153	64	50	61	201	51	84	182	90	133	124	159	168	70	47	75	615	628
6	月	154	153	63	49	63	201	45	88	227	87	141	117	155	153	72	51	61	574	644
7	月	147	147	61	49	61	191	45	77	228	86	137	127	151	145	68	45	56	570	604
8	月	140	138	60	49	62	193	43	79	228	87	159	129	158	149	70	47	48	597	628
9	月	122	126	55	48	58	191	42	85	229	88	160	124	162	149	77	50	54	618	682
10	月	109	115	55	46	57	189	43	82	234	86	149	115	162	141	78	41	48	646	708
11	月	104	113	55	45	58	197	45	78	220	80	147	108	149	145	81	38	50	671	703
12	月	108	122	56	46	58	199	44	77	227	82	157	128	159	154	81	40	52	649	695
平	均	134	146	60	48	59	194	46	86	218	88	138	120	152	149	75	43	60	612	724

2. 農家購入品の購入価格（単位円）

月	品目別 単 位	硫安	硝安	石灰窒素	過石	硫酸加里	塩化加里	菜種粕	魚粕	消石灰	ふすま	米糠	麦糠	役牛	役馬
		1貫	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	1頭
1	月	92	123	86	55	111	88	98	198	17	87	82	59	55, 144	39, 351
2	月	91	137	89	56	121	89	99	195	16	87	84	58	57, 385	38, 708
3	月	91	137	91	55	113	88	101	191	18	90	87	57	56, 326	39, 578
4	月	91	123	87	55	108	89	109	194	16	92	86	66	58, 642	36, 792
5	月	93	129	88	55	122	95	112	194	17	96	88	66	56, 261	39, 669
6	月	92	123	85	55	120	94	109	190	15	95	90	70	56, 642	39, 361
7	月	91	115	87	59	123	96	107	197	16	95	92	66	57, 296	39, 862
8	月	91	110	82	58	121	95	107	197	15	94	81	68	54, 553	37, 688
9	月	92	118	83	58	121	97	111	195	18	96	83	52	54, 767	37, 467
10	月	90	105	82	50	129	90	111	200	15	92	81	58	54, 546	40, 360
11	月	90	108	87	56	122	91	115	192	18	95	82	59	53, 314	32, 874
12	月	90	104	82	56	120	91	117	191	16	99	87	65	54, 974	37, 959
平	均	91	119	86	56	119	92	108	194	16	93	85	65	55, 820	38, 305

農村物価賃金の動き

調査課県勢調査係

よつて、毎月15日現在で調査を行うものである。調査品目については年間を通じ、農村において比較的多く販売、購入するものを選定した。

この結果概要は次のとおりである。

肉鶏	牛乳	鶏卵	稲わら	縄	吠	苧	俵	薪	木炭	だいこん	かぶ	にんじん	ごぼう	さといも	ねぎ	たまねぎ	キヤベツ	ほうれんそう
＼	1升	1ケ	1ノ	1ノ	1枚	〃	〃	1束	4ノ	1ノ	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
506	61	11	14	65	50	65	60	44	442	30	25	69	103	61	72	—	—	62
535	63	11	14	62	52	67	60	45	453	30	24	72	109	66	74	—	—	60
544	66	9	15	58	53	65	58	43	440	28	26	74	108	63	67	—	—	58
548	70	9	13	54	50	64	59	43	433	29	—	77	111	62	68	77	70	57
577	67	9	14	60	51	65	56	44	443	39	39	79	127	64	71	102	54	71
538	65	9	13	52	46	67	57	43	420	35	39	73	118	51	72	74	45	69
548	66	10	16	49	47	68	58	43	438	29	41	73	110	48	53	74	39	—
533	67	10	13	50	49	63	61	41	410	26	39	68	104	—	60	73	47	—
588	67	11	15	52	47	66	61	40	414	20	—	74	89	—	74	96	50	76
577	65	14	13	53	49	64	62	41	427	23	—	76	80	—	63	102	50	69
520	62	11	13	54	49	61	63	41	424	19	28	70	83	66	70	121	—	—
577	59	10	12	54	52	62	61	42	428	19	24	74	87	72	68	143	—	—
543	65	10	14	55	49	65	60	42	431	27	31	73	102	61	68	96	51	65

仔豚	仔兎	初生雛	石油	硫酸銅	硫酸ニコチン	除虫菊末	砒酸鉛	石灰硫黄合剤	DDT	ウスブ	2-4-D	生石灰	くわ	かま
1頭	〃	1羽	1升	500g	〃	〃	〃	18c	500g	〃	50g	4ノ	1丁	〃
3,485	76	93	58	87	627	237	132	665	173	348	138	326	713	112
3,546	67	90	57	79	653	254	133	656	166	375	130	333	699	113
3,700	65	83	57	82	700	204	139	643	193	401	136	349	696	107
3,079	67	84	56	81	625	198	141	705	171	408	138	330	768	116
2,961	63	100	54	87	695	204	141	706	186	392	137	350	775	116
3,041	65	89	55	92	706	224	139	690	191	397	140	351	719	114
2,960	61	91	50	84	726	223	142	668	206	418	135	335	719	115
3,103	69	88	49	92	647	191	138	635	180	443	135	333	718	116
3,315	66	84	52	91	730	204	136	668	173	413	136	325	711	114
3,270	76	85	48	82	748	245	138	641	198	429	127	339	723	115
3,560	65	114	46	87	672	232	143	633	207	413	127	347	766	111
3,540	65	98	47	90	772	209	144	626	254	399	129	270	751	114
3,296	67	91	52	86	691	218	138	661	191	403	134	332	729	113

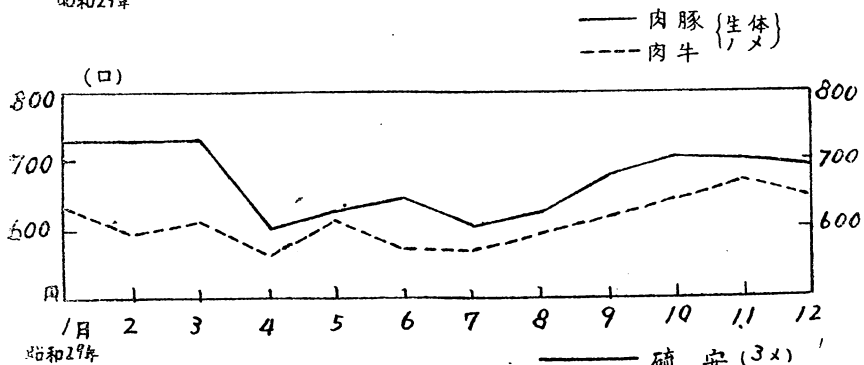
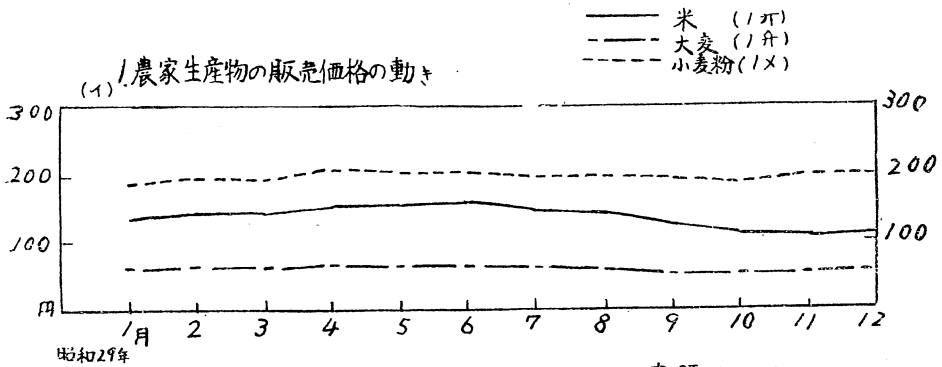
2. 農家購入品の購入価格 (単位円)

(続 き)

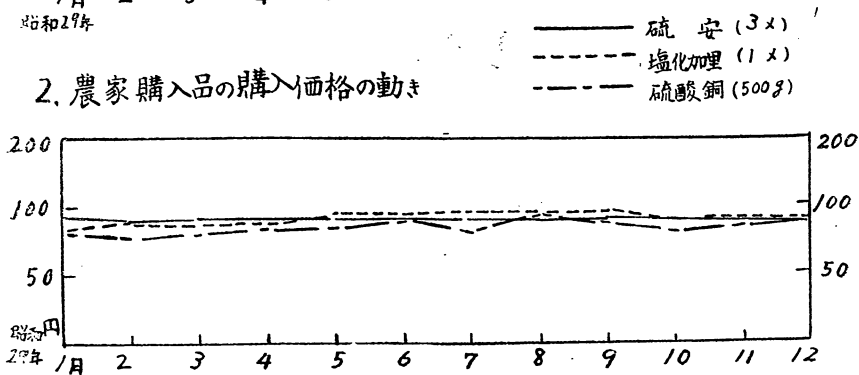
すき	噴霧器	水田除草機	人力脱穀機	動力脱穀機	電動機	釘	針金	トタン	角材	板	紺木綿	作業衣上下	地下足袋	ゴム靴
1台	〃	〃	〃	〃	〃	100匁	〃	1枚	1石	1坪	1反	1着	1足	〃
3,935	3,934	736	5,658	17,856	16,700	32	36	343	4,231	486	498	884	273	707
3,872	3,875	661	5,774	17,313	17,188	32	35	350	4,150	495	495	932	280	714
3,986	3,673	635	5,876	17,631	16,483	32	35	351	4,553	481	502	892	279	688
3,676	4,429	695	5,873	17,336	17,826	31	36	323	3,843	503	542	957	270	692
3,742	4,093	683	5,986	17,022	18,249	31	35	326	3,740	511	537	932	264	743
3,881	3,956	735	5,622	17,470	17,650	29	36	321	3,759	458	548	973	272	736
3,530	4,126	738	5,316	17,326	16,456	31	34	303	3,804	455	501	884	269	685
3,637	4,102	728	5,540	17,360	16,627	29	34	298	3,641	442	489	874	269	671
4,025	4,744	724	6,273	18,008	17,924	33	37	321	3,755	454	445	860	271	684
3,838	4,241	718	5,408	16,894	16,543	29	37	334	3,760	439	467	841	272	643
3,879	3,737	733	5,373	16,957	17,791	30	35	290	3,935	441	481	764	270	641
3,776	3,789	691	5,631	17,521	17,950	29	37	282	3,807	438	483	767	269	654
3,815	4,058	706	5,694	17,391	17,287	31	36	311	3,914	466	499	880	272	688

3. 農村賃金及び農業用料金 (単位円)

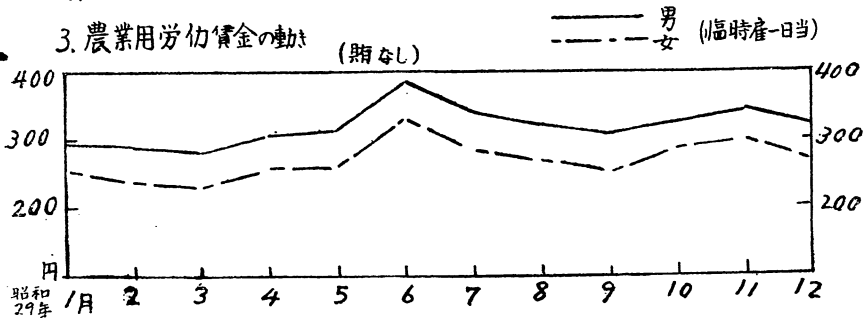
種別	男				女				伐木	木材運搬	糶摺賃 支一俵当	牛糶賃 米荒起一反	馬糶賃 整地1反歩	牛賃借料 一日当	馬賃借料 一日当
	賄なし	一食付	二食付	三食付	賄なし	一食付	二食付	三食付							
1月	298	235	247	205	254	230	194	164	314	402	48	435	463	490	
2月	289	242	208	218	237	191	159	177	318	417	49	436	408	433	
3月	281	248	197	222	233	196	158	162	327	380	47	445	424	482	
4月	306	256	232	191	256	208	220	149	338	447	52	442	333	482	
5月	316	280	245	217	263	225	198	173	370	406	49	427	359	410	
6月	385	335	313	226	335	292	259	253	387	462	46	477	419	472	
7月	341	289	253	236	286	239	210	234	370	451	43	450	396	457	
8月	322	288	247	217	273	236	189	182	375	463	42	436	369	406	
9月	311	271	236	237	251	210	176	165	341	421	50	503	375	425	
10月	334	285	266	251	289	244	200	171	352	390	47	500	367	528	
11月	347	312	273	245	300	268	226	197	338	385	46	608	342	402	
12月	326	280	231	224	274	227	187	182	334	367	50	467	347	438	
平均	321	281	245	224	271	230	198	183	347	415	47	468	383	452	



2. 農家購入品の購入価格の動き



3. 農業用労働賃金の動き (期なし)



昭和29年における本県人口の推移

調査課人口調査係

○本結果表は昭和29年1月から同12月までの1年間における本県人口の、推移を「毎月人口世帯異動調査」の結果により作成した。

○各表の世帯数および人口数は各月末現在のものである。

— 概 況 —

昭和29年末現在における本県人口は2,066,477人でこの1年間に6,584人の増加を示した。この増加の傾向を各月ごとにあらわしたものが第2表および第3表で、これによるとこの1年間に生れた者は44,427人、死亡したものが18,331人で26,096人の自然増加となっており、この割合は出生100人に対し死亡41人である。この自然増加率を示したのが第2図である。このグラフで見られるように増加率の最も高かつた月は1月の0.14%で最低の月は11月の0.07%である。1月の自然増加率の高いことは例年の現象であるがこれは前年末の出生が1月になって届出られる傾向にあるためと思われる。次に社会移動面、すなわち県外から転入してきた者と転出した者等についてみると転入が44,652人、転出が62,970人で18,318人の転出超過となっており、更にその他の移動により1,194人減少しているので社会移動により年間19,512人の減少となっている。社会移動の状態を各月ごとに示したのが第3図でこのグラフに見られるように転出の最も多かつた月は4月で9,596人の多きに達している。これは4月前後に学窓を巣立つた新規就職者や進学者、または年度切換期による各職場の人員移動によるためと考えられる。

通常本県の自然増加人口は転出超過人口よりも上廻っているため29年においては毎月平均549人ずつ増加したことになるが3月と4月は自然増加人口よりも転出超過人口の方が多かつたため、本県の総人口は3月と4月に減少を示し26万人台を割つたが7月に入り再び206万人台を割つたが7月に入り再び206万人台に達し以後漸次増加している。

29年は町村合併が順調に推進したため新たに10市が生れたので参考までに本県の市部と郡部の人口比率を第4表に示した1月における、市部の人口は総人口の約12%であつたのが12月末には約30%となっており市部の人口は急速に増加した。

第1表 人 口 の 推 移

種 別 月 別	世 帯		人 口			
	世 帯 数	対前月増減	総 数	男	女	対前月増減
1 月	381,336	220	2,061,503	1,003,799	1,057,704	1,610
2 月	381,433	97	2,062,261	1,004,129	1,058,132	758
3 月	381,299	— 134	2,059,659	1,002,605	1,057,054	— 2,602
4 月	381,490	191	2,058,356	1,001,493	1,056,863	— 1,303
5 月	381,724	234	2,058,723	1,001,554	1,057,169	367
6 月	381,819	95	2,059,523	1,001,986	1,057,537	800
7 月	381,983	164	2,060,812	1,002,653	1,058,159	1,289
8 月	382,022	39	2,061,781	1,003,285	1,058,496	969
9 月	382,027	5	2,062,327	1,003,108	1,059,219	546
10 月	382,102	75	2,064,614	1,004,361	1,060,253	2,287
11 月	382,267	165	2,065,765	1,005,311	1,060,454	1,151
12 月	382,294	27	2,066,477	1,005,879	1,060,598	712

第 2 表

自 然 増 加

種 別 月 別	出 生	死 亡	出 生 率	死 亡 率	自然増加率	出 生 性 比	
						男	女
1 月	4,598	1,828	0.23	0.09	0.14	52.15	47.85
2 月	4,440	1,821	0.22	0.09	0.13	51.28	48.72
3 月	4,327	1,846	0.21	0.09	0.12	50.94	49.06
4 月	3,890	1,479	0.19	0.07	0.12	51.77	48.23
5 月	3,504	1,371	0.17	0.07	0.10	51.17	48.83
6 月	3,212	1,402	0.16	0.07	0.09	52.55	47.45
7 月	3,287	1,367	0.16	0.07	0.09	50.26	49.74
8 月	3,564	1,356	0.17	0.07	0.10	51.54	48.46
9 月	3,493	1,310	0.17	0.06	0.11	51.79	48.21
10 月	3,507	1,502	0.17	0.07	0.10	50.67	49.33
11 月	3,129	1,550	0.15	0.08	0.07	52.32	47.68
12 月	3,476	1,499	0.17	0.07	0.10	51.38	48.62
合 計	44,427	18,331	—	—	—	—	—

第 3 表

社 会 移 動

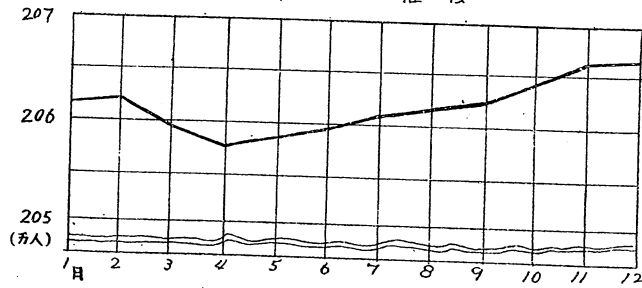
種 別 月 別	対 県 外 異 動			その他による増減 (D)	社会異動による増減 (C+D) (E)
	転 入(A)	転 出(B)	転入出による増減 (C)		
1 月	3,183	4,401	— 1,218	58	— 1,160
2 月	3,103	4,723	— 1,620	— 241	— 1,861
3 月	4,569	8,585	— 4,016	— 1,067	— 5,083
4 月	5,432	9,596	— 4,164	450	— 3,714
5 月	3,810	5,983	— 2,170	404	— 1,766
6 月	3,014	4,049	— 1,035	25	— 1,010
7 月	3,572	4,275	— 703	72	— 631
8 月	3,553	4,628	— 1,075	— 164	— 1,239
9 月	4,172	4,877	— 705	— 932	— 1,637
10 月	4,028	4,393	— 365	647	282
11 月	3,595	3,784	— 189	— 239	— 428
12 月	2,621	3,679	— 1,058	— 207	— 1,265
合 計	44,652	62,970	—18,318	— 1,194	—19,512

第 4 表

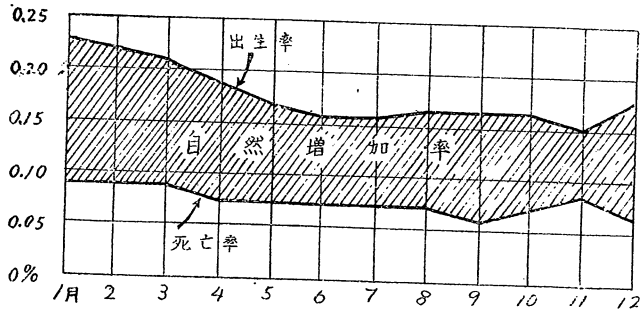
市部、郡部別人口の推移

月 別	種 別	市 部	郡 部	人 口 割 合	
				市 部	郡 部
1	月	人 245,210	人 1,816,293	% 11.89	% 88.11
2	月	276,149	1,786,112	13.39	86.61
3	月	435,670	1,623,989	21.15	78.85
4	月	436,830	1,621,526	21.22	78.78
5	月	437,471	1,621,252	21.25	78.75
6	月	469,979	1,589,544	22.82	77.18
7	月	536,400	1,524,412	26.03	73.97
8	月	536,852	1,524,929	26.04	73.96
9	月	536,525	1,525,802	26.02	73.98
10	月	536,836	1,527,778	26.00	74.00
11	月	611,939	1,453,826	29.62	70.38
12	月	618,035	1,448,442	29.91	70.09

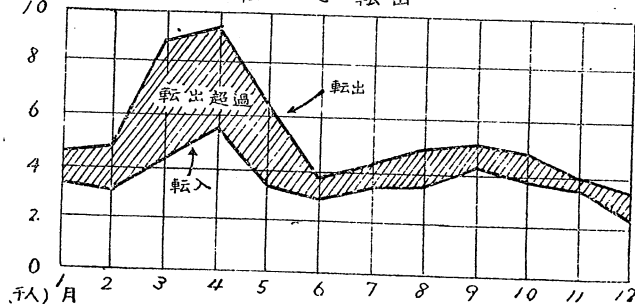
(第1図) 本県人口の推移



(第2図) 自然増加率



(第3図) 転入と転出



今年ひっじ年である。デフレと災厄に慌しく明け暮れた29年は、キレイに忘れたいものである。そして本年こそ、明るい希望を持って平和な年にするように努力しましょう。そのためには、誰もが融和協調の精神を基調としなければならない。そこにはじめて真の自由と平和の民主主義が育つことができる。

人間もあの素朴で温順な羊のようにありたいものである。あらゆる苦惱を忘れたかのように、黙々として生きている羊、陽春の光を浴びながら、広い草原を伸よくかけめぐっている元気な仔羊の群、大山羊を先頭にして何十、何百の綿羊が群をなして、規律正しく、ネリ歩いている悠々たる風景は誠にどのかである。これこそ真の生きている平和像ではないだろうか？

そもそも綿羊の起原は西紀5,000年前頃にさかのぼるといわれ、わが国においては、嵯峨天皇の弘仁11年頃(1,106年前)に初めて新羅の国から贈られて来たそうである。しかしその後、綿羊の育成にはわが国の気象、風土が適さないために、その飼養は余り普及しなかつたようである。勿論、それには試験、研究費の不足や農民の関心が薄かつたことなどもその理由の一つであると思われる。本県において綿羊が統計に初めて現れたのは明治38年でその数は13頭になつている。

しかし戦時から戦後にかけて、わが国における毛織物の需要が激増したけれども、その輸入量が相当不足したために、合成繊維工業の振興を図るとともに、綿羊の飼養増殖が大いに奨励されて来たのである。

特に戦後になり、毛織物の需要が毎年増加して、28、29年頃には国民一人当りの使用量が約1.96ポンドといわ

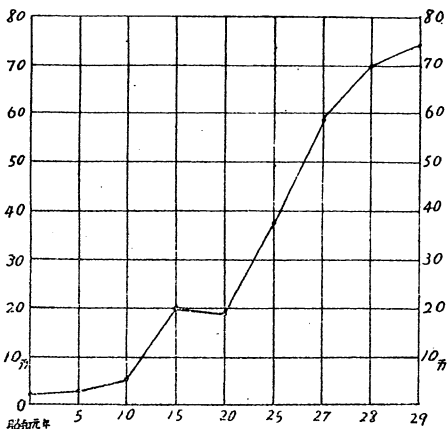
れ、昭和8年頃の最盛需要期の1.8ポンドを遥かに上廻っている。そのために、羊毛及び毛織物類の輸入量も著しく増加して、28年(1月～12月)は約2億1,721万ポンド(原羊毛1億8,954万ポンド(+)洗上羊毛781万ポンド(+)ウールトップ1,986万ポンド)に達し、その輸入代金は約760億円にのぼり、総輸入金額の約10%を占めていることは誠に等閑視できない点である。(28年大蔵省税関部調)

最近国内における綿羊品種の改良及び飼養管理方法が格段の進歩を見せ、他面農民の経済的関心も高まり、綿羊の飼養頭数は毎年増加の一途を辿っている。農林省の調査によれば、29年2月に全国の綿羊飼養農家は約48万6,000戸(昭和15年の60,000戸に比べ8倍余)、その飼養頭数は約73万頭(昭和15年の19万6,000頭に比べ約3.8倍)の多数にのぼっている。(第1図参照)なお国内における羊毛の生産は年間僅かに600万ポンドに過ぎないそうである。

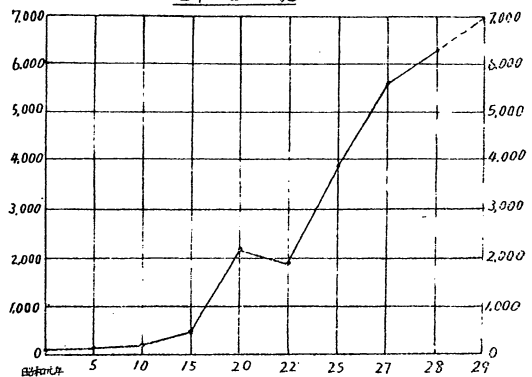
又本県においても、28年8月の県調査課の調査によれば飼養農家は4,232戸(昭和15年の246戸に比べ約17倍)、飼養頭数は6,287頭(昭和15年の472頭に比べ約14倍)になつている。なお29年の分は現在調査中であるけれども7,000頭を越えているものと思われる。(第2図参照)

これらの諸点を見ただけでも、わが国における綿羊の増殖問題は今や農家経済の向上と生活改善を図るとともに、外貨節約のためにも大きな役割を担つていることになる。特に現金収入の少い日本の農家としては羊毛及び肥料の自給と相俟つて、一石三鳥の利益が挙げられるわけである。(Y. N生)

(第1図) 全国における綿羊の増加状況 (農林省統計調査による)



(第2図) 本県における綿羊の増加状況 (昭和元年～20年農林省統計調査、22年～28年総務部調査課)



昭和29年産主要夏作物品種別 作付調査の結果概要 (その一)

調査課農林調査係

1. 調査の目的と方法

農作物の品種の分布状況を調査しておくことは新品種の育成及び栽培技術の指導など農業経営の改善に益するところが多いので、品種の分布状況及び品種別作付面積を正確に調査し、本県農業発展の基礎資料とするために県調査課においては各市町村協力の下に抽出調査の方法により、約1万余の農家から他計申告によつて調査を実施しここに推計したものである。

2. 調査結果の概要

この調査に現われた品種を専門的に検討すると、同一品種が地方名で呼ばれているものもあると思われるがその品種数は次のとおりの多きにわたっている。

水稲うるち154 水稲もち67 陸稲うるち58 陸稲もち39 大豆76 甘藷38

◎水稲うるち

(単位町)

品種名 総作付面積	県 奨 励 品 種													以 外 の 品 種									
	計	農 29	林 35	農 25	林 25	農 1	林 7	ト セ	金 風	南	農 14	林 号	芒 愛	東 48	山 茨 2	愛 城 2	計	農 36	林 36	東 山 千 本	八 州	其 他	不 詳
85,890 %	65,328	25,320	12,491	8,050	7,574	5,220	2,786	2,426	735	368	358	20,526	1,790	1,746	1,660	13,148	2,182						
100.0	76.1	29.5	14.6	9.4	8.8	6.1	3.2	2.8	0.9	0.4	0.4	23.9	2.1	2.0	1.9	15.4						2.5	

◎水稲もち

本年推定作付面積は5,331町となり、本県奨励品種太平糯は863町(総作付の16.1%)となる。奨励品種以外では埼玉糯が最も多く1,038町(総作付の19.5%)、赤糯722町(総作付の13.5%)、干本糯(総作付の14.5%)となる。その他太郎兵衛糯、関取糯等が多く作付されている。

◎陸稲うるち

本年推定作付面積は10,280町となり、奨励品種の作付面積は6,988町総作付面積の68.0%を占めている。そのうち作付面積の最も多いのは農林12号3,585町(総作付の34.9%)であり、次いで農林21号2,946町(総作付の28.6%)農林7号457町(総作付4.4%)の順となっている。奨励品種以外では黒のけ886町(総作付の8.6%)身代起465町(総作付の4.5%)でその他の品種は僅少である。

◎陸稲もち

本年推定作付面積は9,443町でうち奨励品種の作付面積は6,551町で(総作付の69.4%)その品種別の割合は農林糯26号4,690町(総作付の48.8%)農林糯3号(総作付の20.6%)となっている。奨励品種以外ではがいせん糯682町(総作付の7.2%)が最も多く、次に関東41号577町(総作付の6.1%)その他は総作付面積の3%以下の作付である。

◎大 豆

本年推定作付面積は17,695町であり、奨励品種の作付面積は11,307町(総作付の63.9%)を占めている奨励品種の作付面積は次のとおりである。

(単位町)

総数	生娘茨城1号	農林2号	農林1号	花娘茨城1号
17,695 % 100.0	3,981 22.5	2,933 16.6	2,337 13.2	2,056 11.6

奨励品種以外では農林3号1,639町(総作付の9.3%)次にオイラン13,22町(総作付の7.5%)たまむすめ896町総作付の5.1%、地塚852町(総作付の4.8%)等が作付されている。

◎甘 藷

本年推定作付面積は24,728町で、本県奨励品種の作付面積は21,716町(総作付の87.8%)と非常に普及されている。次に品種別に作付面積を示せば下記のとおりである。

(単位町)

総数	県 奨 励 品 種								以 外 の 品 種	
	農林1号	沖縄100号	太 白	シロセン ガン	茨城1号	関東27号	農林2号	飯 郷	佐 山	関東3号
24,728 % 100.0	8,922 36.1	7,709 31.2	2,250 9.1	1,081 4.4	522 2.1	505 2.0	455 1.8	272 1.1	715 2.9	498 2.0

なお奨励品種以外の品種には護国、紅赤、関東22号等が作付されているが総作付面積に対する割合は僅少につき省略した。

3. 水稻(うるち)県奨励品種別推定作付面積

(単位町)

郡 別	品 種 別 総 数	奨 励 品 種											以 外 の 品 種 計
		計	農林 29号	農林 35号	農林 25号	農林 1号	トネ ワセ	金南風	農林 14号	無芒 愛国	東山 48号	愛 茨城2号	
合 計	85,890	65,328	25,320	12,491	8,050	7,574	5,220	2,786	2,426	735	368	358	20,562
総作付百分比	100.0	76.16	29.5	14.6	9.4	8.8	6.1	3.2	2.8	0.9	0.4	0.4	23.9
東茨城郡	6,441	4,428	1,145	954	485	993	236	455	87	40	33	—	2,013
西茨城郡	4,541	2,528	662	1,002	317	27	34	383	74	6	—	23	2,013
那珂郡	5,108	3,621	769	1,404	621	185	186	194	147	93	4	18	1,487
久慈郡	5,338	3,495	812	1,215	342	30	59	194	250	395	13	185	1,843
多賀郡	2,971	2,065	630	315	709	39	32	57	103	73	41	66	906
鹿島郡	5,229	3,959	1,489	426	256	676	294	65	569	33	140	11	1,270
行方郡	5,123	3,946	1,368	663	217	916	387	136	221	7	23	8	1,176
稲敷郡	12,219	9,756	3,141	570	882	3,076	1,458	119	474	16	15	5	2,463
新治郡	8,544	6,407	2,268	1,039	1,355	75	427	946	189	25	69	14	2,137
筑波郡	6,504	5,402	3,495	888	486	141	263	24	79	15	11	—	1,102
真壁郡	9,693	8,140	4,428	1,670	988	116	766	78	76	4	6	8	1,553
結城郡	5,692	4,422	2,022	1,307	293	282	333	81	69	18	4	13	1,270
猿島郡	4,325	3,755	1,361	805	753	354	375	35	46	10	9	7	570
北相馬郡	4,163	3,404	1,730	233	346	664	370	19	42	—	—	—	759

(注) 各市の分はその隣接郡に含まれている。

生産動態統計調査

昭和29年12月度分

織 維 部 門

(調査課調査商工係)

本表は、生産動態統計調査規則に定められている繊維工場を調査対象としたものであるが、特紡糸和紡糸以外の紡績工場、および抽出調査工場は含まれていない。

(1) 工場、労務者及び設備運転状況

部門別	業種別	工場数			在籍従業員			設備						
		全工場	操業	操業度	男	女	計	機種	単位	運転可能	運転不能	実動	稼働率	
		370	359	97	520	1,610	2,130	—	—	—	—	—	—	—
紡績	特紡糸 和紡糸	7	6	86	32	87	119	紡り機 和紡機	計 7機	錘 16,444 2,096 14,348	18,228 — 18,228	— — —	— — —	— — —
織物	計	326	322	98	271	933	1,204	織機 広巾(27吋以上) 小巾(27吋未満)	計 3機	台 1,657 740 280 637	64 25 19 20	1,178 509 117 552	198 69 42 87	
製品	メリヤス製	10	10	100	47	115	162	ミシン 編機 横編機 丸編機	計 4機 手袋以外 靴生地	台 40 228 113 75 22 18	27 142 11 97 10 24	24 108 69 5 22 12	60 294 61 66 100 67	
	雑繊維製品	5	4	80	6	15	21	撚糸機 網製機 動力製機	計 3機	錘 1,945 276 268 8	— — — —	75 11 7 4	39 40 26 50	
	縫製品	17	12	71	79	399	478	電気裁断機 ミシン 足踏ミシン	計 3機	台 20 593 480 113	6 209 179 30	13 247 246 1	65 42 51 1	
その他	製綿	5	5	100	85	61	146	梳廻機 綿切機	計 2機	台 20 45	— 2	14 33	70 73	

(2) 生産状況

部門別	品目別	単位	生産高			引渡高			月度末在庫高		
			当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月
			100対比	100対比	100対比	100対比	100対比	100対比	100対比	100対比	100対比
紡績	計	封度	61,330	91	98	64,970	97	98	2,944	45	130
	落綿糸	〃	52,400	91	107	55,500	99	112	1,550	33	172
	特紡糸	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	和紡糸	〃	8,930	96	64	9,470	84	55	1,394	73	103

(2) 生産状況(続)

部門別	品目別	単位	生産高			引渡高			月度末在庫高		
			当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月	当月度	前月	前年同月
				100対比	100対比		100対比	100対比		100対比	100対比
織物	織綿絹絹和特ス入合	平方碼	316,867	96	111	287,742	87	100	195,585	121	144
	物織	"	128,852	91	103	130,930	87	102	124,004	102	133
	物織	"	34,648	123	388	21,143	126	784	33,852	166	339
	物織	"	4,953	42	33	4,994	38	42	5,585	99	53
	物織	"	125,637	94	162	107,396	80	127	28,406	279	214
	物織	"	59	237	100	59	237	100	0	—	0
	物織	"	2,034	57	127	3,157	59	24	53	45	8
	物織	"	20,684	173	43	20,063	195	43	3,685	120	48
製	メリヤス製品	封度打	4,727	57	83	6,998	80	132	7,337	76	167
	メリヤス製品	"	7,521	96	103	7,811	105	93	5,349	101	144
	メリヤス製品	"	1,230	49	89	1,253	51	97	600	96	112
	メリヤス製品	"	6	75	100	6	100	40	8	100	30
	メリヤス製品	"	4,475	129	127	5,159	154	118	975	75	62
	メリヤス製品	"	1,810	99	75	1,393	85	51	3,766	112	238
	雑織製品	封度	5,966	371	261	9,376	252	189	9,553	97	85
	雑織製品	"	4,410	392	247	5,539	199	129	4,109	89	42
品	縫製品	着	1,013	340	45	1,169	39	43	731	82	61
	縫製品	"	3,561	93	219	2,645	33	182	1,166	466	146
	縫製品	"	3,328	116	82	3,642	113	89	—	—	—
	縫製品	"	1,531	63	56	1,517	162	56	566	102	89
	縫製品	"	1,781	141	41	1,529	116	33	1,093	130	116
	縫製品	"	11,264	147	172	11,409	225	263	8,089	98	71
	縫製品	"	351	40	127	532	56	64	727	80	90
	縫製品	"	172	100	100	172	100	100	—	—	—
その他	製綿	封度	232,427	101	163	232,653	101	160	43,879	99	192
	製綿	"	57,469	124	182	56,697	119	182	22,534	104	138
	製綿	"	174,958	95	157	175,956	96	154	21,345	96	327

(3) 生産の分析

業種別	単位	1工場当り生産高		1労働者当り生産高		業種別	単位	1工場当り生産高		1労働者当り生産高	
		当月	前年同月	当月	前年同月			当月	前年同月	当月	前年同月
和紡績工場	封度	10,828	7,853	515	422	雑織維製品工場	封度	1,491	571	284	109
綿織物工場	平方碼	8,944	8,458	674	660	服類	着	934	1,072	23	27
絹織物工場	"	137	89	50	35	縫製品工場	点	982	527	25	13
メリヤス製品工場	打	752	823	46	51	製綿工場	封度	46,485	35,588	1,592	1,331

昭和29年12月度分

機 械 鑄 物 部 門

索引 番号	製品名 用途別	生 産		出 荷		自己消費	月末在庫
		重 量 kg	金額(千円)	重 量 kg	金額(千円)	重 量 kg	重 量 kg
銑 鉄 鑄 物		87,475	4,463	75,610	3,844	14,752	22,370
01 産業機械器具用		52,467	2,740	42,004	2,215	10,065	10,625
02 織維機械器具用		—	—	—	—	—	—
03 鉄道及び車輛用		6,000	360	6,000	360	—	—
04 電気及び通信機器用		4,671	258	4,671	258	—	—
05 農水産機器用		—	—	—	—	—	—
06 港湾及び船舶機器用		—	—	—	—	—	—
07 雑機械器具用		1,532	82	1,532	82	—	—
08 日用品		16,104	736	17,222	737	2,167	11,745
09 日鑄型及び鑄型定盤		2,520	95	—	—	2,520	—
10 ロソ		—	—	—	—	—	—
11 その他		4,181	192	4,181	192	—	—

製 品 名	工 場 数		月間生産高	月間出荷高	月末在庫高	資 材 名	消 費 kg	月末在庫 kg
	対 象	操 業	前月100対比	前月100対比	前月100対比			
銑 鉄 鑄 物	9	9	102	93	89	銑 鉄	37,803	39,197
						故 鉄	59,414	32,993
						鋼 鉄	4,890	1,476

索引 番号	調査項目 製品名 用途別	生		産			
		青 銅 鑄 物		黄 銅 鑄 物		そ の 他 重 量	
		重 量 kg	金額(千円)	重 量 kg	金額(千円)	重 量 kg	金額(千円)
銅 合 金 鑄 物		9,421	3,308	2,754	726	—	—
01 産業機械器具用		1,255	395	557	128	—	—
02 電気及び通信機器用		2,388	913	—	—	—	—
03 鉄道及び車輛用		826	295	50	15	—	—
04 港湾及び船舶機器用		—	—	—	—	—	—
05 軸受メタル		400	147	85	25	—	—
06 管継手		—	—	—	—	—	—
07 パルプコック		3,908	1,274	1,997	539	—	—
08 建築用品		173	117	—	—	—	—
09 日		—	—	—	—	—	—
10 その他		471	167	65	19	—	—

製 品 名	工 場 数		月 間 生 産 高		
	対 象	操 業	重 量 kg	前月 100対比	金 額(千円)
銅 合 金 鑄 物	7	7	12,175	130	4,034

※ 本表の工場数は下記の定義に基いたものである。

銑鉄鑄物については従業員10名以上

銅合金鑄物については従業員5名以上

を有する工場が調査対象となっている。

昭和29年12月度分

雑 貨 部 門

対象工場数 玩具、革靴、陶磁器は5人以上の事業所、漆器、金属洋食器、赤煉瓦は全事業所

業 種	玩 具	革 靴	漆 器	金属洋食器	陶磁器	赤煉瓦
対 象	3	4	13	1	25	4
操 業	3	4	9	1	23	2
休 止	—	—	4	—	2	2

生産及び出荷状況（前月対比は前月を100とする）

業 種	区 分 製品名	単 位	生 産 数 量			出 荷 数 量						月末在庫 数 量
			数 量	前月 対比	金 額 (円)	国 内			輸 出			
						数 量	前月 対比	金 額 (円)	数 量	前月 対比	金 額 (円)	
玩 具	金属製玩具	個	98,846	256	1,436,800	24,646	411	1,274,365	75,000	250	412,500	1,200
	プラスチック製玩具	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	セルロイド製玩具	打	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
革 靴	男子総革製靴	足	127	110	—	141	112	401,000	—	—	—	187
	婦人総革製靴	〃	120	98	—	155	107	346,400	—	—	—	170
	サンダル	〃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漆器 (木製)	容器類	個	843	158	161,800	853	153	165,300	—	—	—	10
	食卓子膳、盆類	〃	1,145	168	559,200	1,155	172	560,200	—	—	—	120
	その他	〃	2	1	3,500	—	—	—	—	—	—	3
金属洋食器	スプーン	打	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	フォーク	〃	x	—	x	x	—	x	—	—	—	—
	ナイフ	〃	x	—	x	x	—	x	—	—	—	—
陶 磁 器	電 特別高压碍子	疋	29,068	123	—	29,068	123	9,303,000	—	—	—	—
	気 高压用碍子	〃	1,545	119	—	1,545	119	1,230,000	—	—	—	—
	用 その他	〃	1,334	74	—	1,334	74	1,450,000	—	—	—	—
	厨房用品(その他)	〃	157,657	183	—	140,515	140	1,895,050	—	—	—	52,795
	衛生用品(その他)	〃	6,400	110	—	11,750	20	117,500	—	—	—	12,000
赤 煉 瓦	屯	125	27	—	185	44	375,000	—	—	—	425	

備考 前月末在庫過欠補正（食卓子膳類20個減）（厨房用品24個減）



(統)(計)(用)(語)(の)(解)(説)

【出生率】1年間の出生数を年内の平均人口、或いはその年の中央における人口、又はその年初人口と年末人口の平均値で割つたものを出生率といい、普通千分率で示す。わが国では通常10月1日現在の人口を分母として用いる。

【人口の増加率】単位時間における人口の絶対的増加数を当初人口で割つた比率

【人口の増加速度】単位時間における人口の絶対的増加数をいう。

【人口の自然増加率】人口増減の自然的要因としての出生数と死亡数の差を人口の自然増加数といえ、自然増加数を年間の平均人口或いは年中央の人口で割つた比率を人口の自然増加率という。すなわち、出生率と死亡率の差に同じ。

【人口の自然増加指数】出生率を死亡率で割つたもの。

【死亡率】1年間の死亡数を年内の平均人口或いはその年の中央人口、又は年初人口と年末人口の平均値で割つたものを死亡率という。

【標準人口】標準的年令構成を有する人口をいう。

【乳児死亡率】ある年の1才未満の死亡数をその年の出生数で割つた比率。

【統計値】統計集団又はその部分集団に属する統計単位の総和の値、或は個々の統計単位の量的標識の総和の値をいう。例えば昭和25年の国勢調査の県総人口2,089,418人、男993,694人、女1,045,724人などということになる。なお統計数値、統計数字も同意義。

【百分率、(百分比)】二つ又はそれ以上の統計値を相互に比べるときに用いる割合比率で両者の割つた商を100倍したものである。例えば水戸市の人口85,167人石岡市の人口30,682人であるとき、両者の人口比較を百分比で示すには、 $\frac{\text{水戸}}{\text{石岡}} = \left(\frac{85,167}{30,682} \times 100 \right)$ 、又は

石岡 = $\left(\frac{30,682}{85,167} \times 100 \right)$ ということになる。

なおこの場合の商を1,000倍したものを千分比(千分率)といえ、百分比より更に一桁だけ精密に比率を知ることができる。

【国民所得】通常『国民所得とは一国の経済が一年間に新たに生産した物財、用役を貨幣額であらわしたものの』

といわれる。すなわち生産、流通、消費の三過程における複雑な経済活動を総体的かつ集計的にとらえようとするのが国民所得統計という。(例えば名目所得、生産所得、実質所得、分配所得などがある)

【基準年次】例えば価格指数を算出するとき、各物品の一定単位の価格を各時期(月、年)について調査し、その中の一時期の価格を100として、他の時期の価格を比例的に算出する場合に100とされる基準の年を基準年次という。

【賃金指数】労働者階級の所得状態、特にその時間的変動を捉えようとするもので、各地方又は全国における主要な各種職業の労働者賃金を総合して作つたものである。なお賃金指数はその素材たる賃金の性質によって賃金率指数と賃金所得指数とに分れる。

【賃金率指数】賃金支払の規準たる賃金表記載の数字を調べて作成した指数であり、出来高賃金率指数と時間賃金率指数がある。

【賃金所得指数】労働者がその遂行した作業に対して、実際に受取つた賃金を基礎として作成した指数である

【生活水準】一定の時期と比較した生活程度を指数であらわしたもの。通常の水準測定は戦前に対する家計費の値上り倍率を物価の値上り倍率で割つたり、或いは物資の供給量(生産量と輸入量を加え、これから輸出量を差引いたもの)をそのときの人口で割つて、戦前の基準年次のものと比較するものである。

編 集 室

◎久し振りに美濃部先生原稿をいただき早速本号に掲載できましたことを厚くお礼申し上げます。

◎本年はひつじ年なので、どこでもひつじにちなんだ話題で大変にぎわっている。本誌もおくればせながら、【調査の窓】に綿羊の由来と最近の統計について、そのあちまを掲載しましたが、資料不足のために満足なものができなかったことをお詫びします。

◎主要夏作物の奨励品種の作付状況を抽出調査(20分の1)した結果の概要を掲載しましたが、紙数の都合上奨励品種以外の作付面積は総数のみにとどめるとともに次号には陸稲、大豆、甘藷の分を載せる予定です。

◎前号の【調査の窓】に掲載した『デフレと失業』の末尾のほうにある本県の一般預金の86億8千万円と535億円は銀行、農協組、郵便局、その他金融機関の分などを合せたものであります。なお全国における全金融機関の預金残高は10月末で、4兆563億円を越えているそうです。更に本県における一般預金の増加状況については、追って詳細に掲載する予定になっております。

◎前号の【茨城県統計報告調整協議会の動き】の前文第一行中の『統計調整法に基き』は『統計調整法に準じて』と訂正します。

◎統計だより

- 1月8日……定例地方事務所調査課長会議を統計館において開催。
- 1月11日……定例各市統計主任会議を統計館において開催。
- 2月1日……関東甲信静ブロック生産動態調査連絡会議が山梨県において開催された。
- 2月9日……定例地方事務所調査課長会議を統計館において開催。
- 2月10、11日……関東甲信静各県民所得推計連絡会議が神奈川県において開催された。
- 2月11日……定例各市統計主任会議を統計館において開催。
- 2月13日……猿島地方事務所主催で郡統計図表展示会が同事務所で開催された。なお出品作品100点の審査は県調査課の中川、足立両主事が行った。

近着主要統計書目録

(昭和29年10月29日から12月24日まで)

書名	発行所年月日	書名	発行所年月日
資料月報	総理府統計局図書館	県民室	茨城県知事室公聴課
鉱工業概況	長野県総務部統計課 No. 2	労働力調査報告及び摘要	総理府統計局
山口県農家の経済状態	山口県企画統計課 8月号	昭和29年度事業所統計調査結果連報	"
農林統計調査	奈良県調査課 28年度	工業統計	石川県 28年
広島県鉱工業生産指数	広島県統計課 1月～6月	統計教育特集	新潟県統計課 No. 31
稲敷統計時報	稲敷地方事務所調査課 28年	奄美群島人口調査結果報告書	総理府統計局人口第一課
冬期農業調査の結果概要	千葉県統計課 29年度	昭和25年国勢調査報告	"
調整報告・届出月報	行政管理庁統計基準部第2部 9号	第4巻	
統計情報	" 3の10	住宅需要の推計	総理府統計局
業務概況報告	日本専売公社水戸地方局28年度	統計月報	総理府統計局
教育調査	全国教育調査研究会茨城支部	工業統計調査結果表	広島県統計課 28年
デフレの浸透と中小企業融資の現況	茨城労働基準局給与課	統計情報	行政管理庁統計基準部 11月
労働統計年報	労働省大臣官房労働統計調査部 28年	家計調査報告	総理府統計局 9月分
和歌山県勢要覧	和歌山県統計課 28年版	人口推計月報	" "
人口問題研究	厚生省人口問題研究所	東京都の労働関係に対する人口増加の影響	東京都労働局総務部
戦後日本の人口問題	"	大阪市勢要観	大阪府行政局統計課 29年
第7回簡速静止人口表	"	農業センサス結果報告	神奈川県総務部統計課 29年
大阪府下自転車工業従業員に対する職業移動調査報告	"	小売物価統計調査報告	総理府統計局 9月分
高知県勢要覧	高知県統計課 28年版	鳥取県県民所得推計結果報告書	鳥取県総務部統計企画課 27年
高知県統計書	" 27年	住民登録人口移動報告結果表	大阪府総務部統計課 4.5.6月
農林水産統計月報	農林省統計調査部 No. 31	郵政統計年報	郵政省 28年度
茨城県税務統計書	茨城県総務部税務課 27年度	茨城教育調査	全国教育調査研究会茨城支部 No. 11
昭和28年工業統計表	埼玉県総務部統計課	鉱工業概況	長野県総務部統計課 No. 3
これからの食生活	茨城県食糧消費合理化促進運動本部	茨城県教育時報	茨城県教育委員会
栃木県農林統計調査報告書	栃木県統計課 28年度	国民所得資料月報	経済審議庁調査部国民所得課 No. 53
時刻別降水量(栃木県の部)	水戸測候所	農林水産統計月報	農林省統計調査部 No. 32
地質調査年報	工業技術院地質調査所 28年度	調整報告・届出月報	行政管理庁統計基準部 第2巻第10号
雑貨統計年報	通商産業大臣官房調査統計部 29年版	統計	日本統計協会 12月
毎月勤労統計調査結果表	労働大臣官房労働統計調査部	和歌山県統計書	和歌山県総務部統計課 28年版
一全国調査一	"	徳島県県民所得推計結果報告	徳島県 27年度
一地方調査一	"	非鉄金属等需給統計年報	通商産業大臣官房調査統計部 28年
中小工業生産動態統計四季報	通商産業大臣官房調査統計部 4月～6月	非鉄金属製品統計年報	" 28年
郵政統計年報(為替貯金編)	郵政省貯金局企画課 28年度	紙・パルプ統計年報	" 28年
品種別栽培面積調	茨城食糧事務所調査課 28年度	石油統計年報	" 28年
統計分析	通商産業大臣官房調査統計部	資料月報	総理府統計局図書館
農業経済調査成績	農林省茨城統計調査事務所	小売物価統計調査報告	総理府統計局 10月分
富山県統計書	富山県 27年度	茨城県沿海漁村経済調査書	茨城県漁業協同組合連合会 No. 1
秋田県公報	秋田県	商業動態統計季報	通商産業大臣官房調査統計部 7～9月分
工場名鑑	茨城県統計協会 29年	民間放送はいかに聴かれていますか	ラジオ東京調査部 No. 101
婦人労働統計資料	労働婦人少年局 1953年分	栃木県勢一覽	栃木県総務部統計課
佐賀県勢要覧	佐賀県統計協会		